生徒

回答数 93人

評価ジャンル	項目	1	2	3	4	未	肯定	否定	グラフ
学校生活	1学校へ行くのが楽しい。	25	38	17	13	0	68	32	
	14学校祭・体育祭・宿泊研修などの学校行事は、楽しみである。	46	26	12	9	0	77	23	
	15生徒会・委員会活動に参加している。	49	29	5	10	0	84	16	
	16クラブ活動に参加している。	48	9	4	32	0	61	39	
授業	2授業は、わかりやすく、楽しい。	17	49	20	6	1	72	28	
	3自分の考えをまとめたり、発表することが多い。	13	41	32	7	0	58	42	
	4授業の内容や教え方など工夫をしている先生が多い。	34	43	11	4	1	84	16	
進路指導	5将来の進路や生き方について考える機会がある。	42	40	7	4	0	88	12	
	6学校は進路についての情報を知らせてくれる。	46	36	8	3	0	88	12	
	7先生以外の外部の方から、進路に関する話をきくのはためになったと思う。	49	35	6	3	0	90	10	
教員について	8担任の先生に、困っていることや悩みを相談できる。	24	30	21	18	0	58	42	
	9担任の先生以外に、保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。	18	29	25	21	0	51	49	
	18先生は、自分のことを理解してくれている。	24	41	12	15	1	71	29	
	19先生は、みんなの意見を聞いてくれる。	34	37	13	9	0	76	24	
	20学校生活についての先生の指導は納得できる。	28	38	15	12	0	71	29	
人権教育	10先生はいじめなどについて困っていることがあれば、真剣に対応してくれる。	34	34	13	11	1	74	26	
	11命や人権の大切さについての学習はわかりやすく役に立つ内容である。	45	34	8	6	0	85	15	
道徳教育	12社会のルールについての学習はわかりやすく役に立つ内容である。	38	38	12	5	0	82	18	
性に関する指導	13性に関する学習は、毎年あり、わかりやすく役に立つ内容である。	33	39	16	5	0	77	23	
個別の支援									
生徒評価									
教育相談									
危機管理	17地震や火災などがおこった場合、どうしたらよいかを、わかりやすく知らされている。	32	47	11	3	0	85	15	
家庭との相互理解									
情報発信地域連携									
交流及び共同学習									
学校組織									
研修									

割合（%）

評価ジャンル	肯定	否定	グラフ
学校生活	73	27	
授業	71	29	
進路指導	89	11	
教員について	65	35	
人権教育	79	21	
道徳教育	82	18	
性に関する指導	77	23	
個別の支援			
生徒評価			
教育相談			
危機管理	88	12	
家庭との相互理解			
情報発信地域連携			
交流及び共同学習			
学校組織			
研修			

保護者

回答数 49人

評価ジャンル	項目	1	2	3	4	未	肯定	否定	グラフ
学校生活	1子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	18	22	8	1	0	82	18	
	23体育祭や校外学習・宿泊研修などの学校行事は、参加しやすいよう工夫されている。	25	21	1	0	2	98	2	
	24子どもは、積極的に部活動に参加している。	26	9	6	7	1	73	27	
授業	6子どもは、授業が楽しくわかりやすいといっている。	13	30	2	1	3	93	7	
進路指導	13学校以外の相談機関の情報を学校から入手できる。	5	23	19	0	2	60	40	
	14学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	17	26	6	0	0	88	12	
教員について	27教職員は、子どもの障がいを理解している。	18	24	6	0	1	88	13	
人権教育	19学校は、子どもの発達段階や実態に応じて生命を大切にする心や人権を尊重する態度を育てようとしている。	16	24	6	0	3	87	13	
	20教職員は、いじめなど子どもが困っていることがあれば、真剣に応じてくれる。	16	27	3	0	3	93	7	
	30教職員は、すべての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。	13	23	2	0	11	94	5	
道徳教育									
性に関する指導	21性に関する指導は、段階を追って計画的に実施されている。	11	32	2	0	4	96	4	
個別の支援	25学校は個別の指導計画・教育支援計画の目標や手立て等について、説明をしている。	26	21	1	0	1	98	2	
	26個別の指導計画・教育支援計画について、内容・評価を確認する機会が設定されている。	25	23	0	0	1	100	0	
	28個別の指導計画・教育支援計画は、本人・保護者のニーズを踏まえ作成されている。	15	24	0	0	10	100	0	
生徒評価	4通知表は、子どもの学習の達成度を適切に評価できるように工夫されている。	17	30	2	0	0	96	4	
	5教職員は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。	18	29	2	0	0	96	4	
教育相談	8学校は、子どものことについて保護者の悩みや相談に適切に応じてくれる。	18	29	1	0	1	98	2	
	9子どもの心身の健康や障がいの状況について、気軽に学校に相談できる。	17	25	5	0	2	89	11	
危機管理	10地震や台風などの場合の対応について、子どもや保護者に周知されている。	24	23	1	0	1	98	2	
	22学校では、子どもに関するプライバシーが守られている。	19	24	1	0	5	98	2	
家庭との相互理解	2学校は、教育活動全般について、子どもや保護者の願いによく応えている。	16	31	2	0	0	96	4	
	3学習の内容・学校生活の様子を懇談や学年通信によって、知ることができる。	16	30	2	1	0	94	6	
	11学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。	17	28	3	1	0	92	8	
	15PTA活動に参加しやすい。	10	29	7	2	1	81	19	
	16この学校の授業参観や学校行事に参加している。	17	20	10	1	1	77	23	
情報発信地域連携	7学校が保護者に出す文書・事務連絡等がわかりやすい。	14	30	5	0	0	90	10	
	12学校のホームページはわかりやすい。	10	29	5	1	4	87	13	
	17学校は、保護者が授業を参観する機会を設けている。	27	20	0	1	1	98	2	
交流及び共同学習	18学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている。	11	26	8	1	3	80	20	
	29学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。	4	20	13	1	11	63	37	
学校組織									
研修									

割合（%）

評価ジャンル	肯定	否定	グラフ
学校生活	84	16	
授業	93	7	
進路指導	74	26	
教員について	88	13	
人権教育	91	8	
道徳教育			
性に関する指導	96	4	
個別の支援	99	1	
生徒評価	96	4	
教育相談	94	6	
危機管理	98	2	
家庭との相互理解	88	12	
情報発信地域連携	91	9	
交流及び共同学習	72	28	
学校組織			
研修			

教職員

回答数 37人

評価ジャンル	項目	1	2	3	4	未	肯定	否定	グラフ
学校生活	23学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫、改善を行っている。	14	18	4	1	0	86	14	
	24生徒会の運営と活動が自主的にできるよう、担当者の支援が行われている。	8	22	5	2	0	81	19	
授業	7学習形態の工夫・改善を行っている。	7	25	5	0	0	86	14	
	8コンピュータ等のICT機器が、各教科の授業などで活用されている。	12	21	3	1	0	89	11	
進路指導	14生徒が将来の進路や生き方について考える機会を多く設けている。	19	14	3	1	0	89	11	
	15生徒一人一人が興味・関心、適性に応じて進路選択が出来るよう、きめ細かい指導を行っている。	17	18	1	1	0	95	5	
	16進路指導において、福祉・労働機関等の関係諸機関と緊密な連携が出来ている。	15	18	3	1	0	89	11	
教員について	12教職員は生徒の意見をよく聞いている。	12	20	3	1	1	89	11	
	17教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。	13	21	2	1	0	92	8	
人権教育	13教育活動において、生徒が命の大切さや人権尊重の態度を身につけるよう配慮している。	9	22	2	3	1	86	14	
	26生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている	13	19	3	1	1	89	11	
道徳教育	22道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続して行っている。	4	20	9	3	1	67	33	
性に関する指導	25性に関する指導は、系統的・計画的に行われている。	17	16	1	2	1	92	8	
個別の支援	5指導内容については、生徒の実態に合うように教職員間で話し合いがもたれている。	13	17	7	0	0	81	19	
	9自立活動の指導に当たっては生徒が興味をもって主体的に取り組めるように工夫している。	4	18	11	3	1	61	39	
	27個別の指導計画・教育支援計画について、本人・保護者のニーズを踏まえ作成している。	17	18	0	0	2	100	0	
	28個別の指導計画・教育支援計画について、保護者に開示し説明している。	22	13	1	0	1	97	3	
	29個別の教育支援計画の作成、活用について、関係機関と連携を図っている。	8	20	7	1	1	78	22	
生徒評価									
教育相談									
危機管理	1個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している。	8	20	8	1	0	76	24	
	2事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。	17	18	1	1	0	95	5	
	3学校の諸活動において安全指導が徹底している。	8	25	3	1	0	89	11	
	30. いじめ〈疑いを含む〉が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。	16	14	3	3	1	83	17	
家庭との相互理解									
情報発信地域連携	18情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。	18	15	3	1	0	89	11	
	19教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。	8	21	7	1	0	78	22	
	20保護者や地域の人々と接する機会を持っている。	7	19	9	2	0	70	30	
交流及び共同学習	21近隣の学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。	4	18	12	3	0	59	41	
学校組織	4この職場においては教職員の服務規律への自覚が高い。	8	17	11	1	0	68	32	
	6職員会議・学年会等の会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。	7	18	11	1	0	68	32	
	10教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている	4	21	10	1	1	69	31	
研修	11研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。	3	24	8	1	1	75	25	

割合（%）

評価ジャンル	肯定	否定	グラフ
学校生活	86	14	
授業	88	12	
進路指導	91	9	
教員について	90	10	
人権教育	88	13	
道徳教育	67	33	
性に関する指導	92	8	
個別の支援	83	17	
生徒評価			
教育相談			
危機管理	86	14	
家庭との相互理解			
情報発信地域連携	79	21	
交流及び共同学習	59	41	
学校組織	68	32	
研修	75	25	

記入欄

結果と考察

・部活動に関して、身近な目標（大会や発表会等）を意識させ指導することにより、積極的に部活動に参加できている。しかし、例年新入生の入部率が75～0%と高いものの、全体の入部率は70%を下回っており、毎年2学年への進級時に退部する生徒が一定数見られることが一因と考えられる。そこで、昨年度より一定期間活動を懸命に取り組んだ転部希望者については、年度途中での転部を認めた。その結果、今年度は昨年度に比べ新2年生の退部率が低くなった。これまで通り、顧問と担任（学年）間の情報共有を密に行うことで、該当生徒の課題に対し課内課外で対応することができ、更に生徒と部活動のマッチングにも的確に対応することができれば、今後益々部活動への定着に繋がると考えられる。
・生徒会活動に関して、開校して5年が経過し、本校生徒会役員の年間を通しての役割が徐々に定まってきたこともあり、今後は生徒会役員が自主的に行事などでの役割等、生徒会の活動に取り組めるよう、教員主体の運営から自主性を育めるような支援の方法にシフトしていくことが望ましい。

生徒への設問「2授業はわかりやすく楽しい」「3自分の考えをまとめたり発表することが多い」「4授業の内容や教え方など工夫を沿いる先生が多い」について昨年度より肯定率は上がっている。保護者への設問「6子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」については昨年度より肯定率が+17ポイントと高くなった。このことから一定の授業改善は進んでいると受け止めることができる。
教員の肯定率はほぼ横ばいであるが、これについては授業改善はまだ取り組む余地が多い、不十分であると本校の授業力の現状を客観的に捉えている教員が多いと見ることができるのではないだろうか。

・地域情報については、校区が広範囲のため、各地域の支援学校より情報量が少ない。
・各学年の進路の取組みについては、各学年の担当がブログにアップしいるがあまり周知されていない。
・保護者にとって、どのような情報がほしいのか、ニーズを把握する必要がある。
・3年生については、必要時に進路懇談を設定しているので、その際に進路情報は伝えていいる。

・今年度より週3日（月木金の昼休み）に、小さな悩みでも気軽に相談できる「ランチタイム相談室」を開設して相談しやすい環境をつくった。
・今年度より生徒からのスクールカウンセリングの申し込みを受けけるBOXを設置したことで生徒からの相談が増えた。
・遅刻の多い生徒に対してスクールカウンセリングを実施した結果、遅刻を減らすことができた。また家庭内の悩みを相談できたことで、学校生活を前向きに考えられるようになった生徒もいた。現在は年間10回（50時間）であるが、本校は問題を抱えた生徒や保護者も多いことから、100時間程度のスクールカウンセラーの派遣をお願いしたい。

・生徒の質問「8 悩みを相談できる」、「9 担任以外で相談できる先生がいる」等について、やや肯定が低くなっている。家庭や友人など先生以外で相談相手がいる生徒や特に悩みや相談がない生徒が、低めの評価とした可能性も考えられるが、相談体制のさらなる充実や障がい理解の推進に努める。

・保護者・教員の肯定率は高めと捉えることができ。人権への取り組みや学校全体の人権尊重の意識は高いと捉えることができる。生徒質問10「先生はいじめなどについて困っていることがあれば、真剣に対応してくれる」の肯定率が低い。学校生活の中での対人関係トラブル等で教員の見立てや判断よりも、重く受け止めていたり、気にしている生徒がいると受け止め、より一層丁寧な対応を心がける必要がある。
・年間2回の人権LHRを学年ごとに課題のあるテーマで実施している。来年度以降は2回の人権LHRのうち1回については、外部講師を招いて全校生が一つの問題を考えるような形態にできないか検討していく。

・今年度より学年LHRの活動のいくつかを「道徳」としておこなっている。授業において「道徳教育」を意識した活動ができるように今後も各部署にて考えていく。

年度当初に各学年、年間指導計画を作成し、保護者に配付する事で保護者に周知することができている。定期的にLHRで指導することで生徒の意識も向上したと考える。また、今年度は生徒向け、保護者向けに講演会を行った。

全体として肯定率が高い結果となっている。教職員への設問「9 自立活動の指導」について、今年度初めて実践交流会で研修を行ったため、まだまだ肯定が低い結果となっている。今後は新転任の教職員に向けた研修を夏季休業中などに実施できるように検討していく。

生徒評価について、適切に実施してると受け止めていただいていると捉えることができる。
今後の保護者の理解や協力を深められるように学校全体で維持していく。

比較的高い評価となっており、保護者が今後も相談しやすい体制を維持していく。

保護者のこのカテゴリー肯定率は+8ポイントでなおかつ高い。学校側の体制、対応について一定評価していただけていると受け止めている。
実際の活動として、1年生には災害時引渡し訓練を実施することで、実際に災害が起こった時に保護者に学校に迎えに来ていただくことを伝えることができた。またすぐメールの活用もできた。といった点が挙げられる。
クラス担任の対応等にも個々のプライバシーに対する配慮ができていると評価していただけた。

保護者へのこのカテゴリーの設問「2，3，11，15，16」のうち3つは昨年度より肯定率が向上しており、なおかつ高い肯定率であるが、これは各クラス、学年団が情報共有をしっかりと行い適切な保護者対応を心がけて実行できている結果と受け止めて良い考える。設問「15PTA活動に参加しやすい」「16この学校の授業参観や学校行事参加している」の2つの肯定率が低いことから、全体の肯定率平均値を押し下げる結果になっている。学校への保護者参加は各ご家庭の事情等によるところが大きいので学校側の努力だけでは改善は難しい。しかしながらPTA役員や保護者からの意見をしっかりと受け止め、少しでも改善していけるような取り組みを進めていきたい。

今年度よりオープンスクール、学校見学会などもホームページを通じて申込をおこなう形式に変更した。学校生活の様子をつづるブログの発信も全教員で取り組んでおり、さまざまな形でホームページの活用をおこなっている。

本校の取り組みや行事について年間10通の「地域便り（FLY TO THE SKY）」を発行している。また今年度は生徒が手書きした学校祭のポスターを上鳥飼自治会、柱本自治会に配付して来場を呼びかけ、地域の方々との交流の機会をつくることができた。

他校との連携・交流については、生活科学科による摂津支援学校小学部との交流や近隣幼稚園との交流を積極的に行っているが、全校的な取り組みは高等支援ということからあまり行われていない。生活科学科の連携内容等が教員への周知されていないこともあって肯定が低いという結果になってしまっている。
一方で地域との交流は、授業で製作した製品をわいわいガヤガヤ祭で販売、摂津市農産物品評会へ地域伝統野菜の鳥飼ナスの出品、江州音頭クラブとの合同練習、摂津市手話サークルとの授業等、学科や学年が多くの連携を行っている。

カテゴリ平均として昨年度より－2ポイントであった。学校改革の意識を持ち日々取り組んでいるところであるが、以下のようにさらいに取り組みを進めたい。
・教員の自覚、使命感、規律を高めるための働きかけ、研修の充実。
・PDCA等による点検を繰り返し行い、協働力、同僚性等を高め学校の組織力を向上させる。
・意見交換や提案がなされやすいような職場環境、会議手法などの改善。

講演会などの研修案内や研修報告を回覧したり、実践交流会で他校の取り組みについての発表をしたりしたことで、昨年の39%より大幅に上昇したと思われる。また、指導教諭より地域支援部通信を発行して、書籍の紹介や用語の説明等を行ったことも寄与した。次年度以降も、他校などでおこなわれる講演会について案内方法を検討して多くの教員が参加できるようにしたい。